

議会報告会 報告書

秦野市議会議長 小菅 基司 様

文教福祉常任委員会委員長 野々山 静香

開催日時	令和3年11月11日（木）午後2時から午後3時30分まで
開催場所	市役所本庁舎4階 議会第一会議室
出席委員	委員氏名（役割）
	小菅基司（議長あいさつ） 野々山静香（進行）、中村英仁（議会報告）、伊藤大輔（受付）、 佐藤文昭（記録）、風間正子、高橋文雄、阿蘇佳一、諸星 光
参加者数	在宅医療と介護の連携における関係団体の皆様 ○丸山 博志 様（医療法人社団 Matera 丸山クリニック 院長） ○佐藤 志保 様（秦野市訪問看護ステーション連絡協議会 会長） ○近藤 真由美 様（秦野市介護支援専門員協会 会長） ○高橋 優子 様（大根地域高齢者支援センター 管理者） ○諸星 初恵 様（渋沢地域高齢者支援センター 管理者）
主な流れ及び 時間配分	1. 開 会 2. 議長あいさつ 3. 常任委員会 委員紹介 4. 参加者自己紹介 5. 趣旨説明（議会の仕組み・議会報告会の意義） 6. 議会報告 (1) 通年議会の導入について (2) 令和3年9月定例会における決算審査の主な質疑について 7. 意見交換 テーマ：在宅医療と介護の連携に関する現状と課題などについて 8. 閉 会
内容 (話し合われた 課題や意見、所感 等)	【意見交換内容】 ○参加者からの意見交換テーマに関する意見 丸山様：秦野市の在宅医療について、開業医同士や大きな病院、介護 スタッフとの連携に関しては、十分取れていると感じる。コ ロナ禍で様々な課題が出てきたが、このままの体制でやって いきたい。 近藤様：純粹に在宅のケアマネージャーをしているのは80人ちょっ

という。開業医の往診の先生方が地域に心を寄せてくれているため、連携は取れていると感じている。しかし、コロナ禍で入退所の連携がうまくいかない時期が大変だった。リモートによる面談など、コロナ禍でも入退所がスムーズにいくような体制整備が必要と感じた。また、ケアマネに対するメンタルケアや8050問題への対応が課題。

佐藤様：医療依存度が高い人が増えており、知識や技術に関してスタッフの育成が課題。また、訪問を断られないよう対応することに、メンタル面での難しさを日々感じる。

高橋様：がん末期の方の相談が増えているように感じる。また、未受診のまま課題を抱えている高齢者が多くいるため、医師や行政と相談しながら対応しているのが現状。さらに、スタッフは車で利用者宅へ向かうことが多いが、駐車許可証を掲示していても通報されてしまうケースがあることも課題。

諸星様：認知症か精神疾患か判断が難しい高齢者で、なかなか医療につながらない方が多く、訪問して関係性を作ることから始めている。また、渋沢地域でもシルバーカーや歩行器で安全に歩けないような場所がたくさんあると感じる。

○議員からの意見

阿蘇議員：コロナ禍におけるみとりの現状について

諸星様：施設では面会の制限が緩やかになってきている。特に有料老人ホームでは、決められた部屋での面会が行われているところもある。

阿蘇議員：自宅療養者に対する支援についてご意見をお伺いしたい。

丸山様：生活に困窮して家族にみとられずに亡くなる方など、様々なケースがあり諸問題はあるが、日本は比較的温かい支援がなされていると感じる。また、秦野市のワクチン集団接種は、伊勢原市と比べて順調にいつていると感じる。

伊藤議員：介護保険料がどんどん高くなっている。介護保険を維持していくため、予防の観点と在宅医療の限界点を高めることについて、何かお考えは。

丸山様：老衰等については、医療もある程度上限を設けるなど、介護に関しても過剰なサービスの提供を慎むことが必要ではないかと個人的には考えている。また、予防医学に関して、どの時点から予防したほうが良いかは非常に難しい判断になる。

伊藤議員：外国人労働者の現状は。

丸山様：コロナが落ち着けばもう少し増えてくると思う。

高橋議員：給料が上がれば施設職員も増えてくるのではないか。行政からの支援も必要になってくると思うが、職員の処遇改善についてのお考えは。

高橋様：施設の安全衛生委員会に出席し、職員の処遇改善が図られるようにしているが、現状、職員の疲労は増していると感じる。費用については、国や市から処遇改善加算が付けられている。

諸星議員：級地区分で地域格差があり、秦野市は6級地域で、伊勢原市の5級よりも低くなってしまっている。また、秦野市は高齢者にやさしいまちづくりを目指してエイジフレンドリーシティに参加している。

風間議員：施設に入りたくても、コロナの影響で入所できないという問題がなかったか心配している。

近藤様：入所したら会えなくなるので、悩む家庭は多かった。秦野市には24時間対応でヘルパーさんが回ってくれる定期巡回というサービスがある。このようなサービスを駆使して介護の手を助けながら在宅を保つという選択をされる方が割と多かったと思う。認知症で徘徊してしまう方は、入所せざるを得なかったが、家族に会えず、中には入退所を繰り返す方も増えてきた。また、介護をする側の方が入院してしまい、認知症の方だけが取り残されてしまう事例も増えてきたと感じる。

風間議員：みとりに関する医療現場のお考えは。

丸山様：コロナ前に共有した意識は、ほぼほぼ在宅、ちょっと入院ということで、誰かが困るということになるべく無くそうという考えで活動してきた。コロナ禍でできなかったが、来年度は活動を再開する予定。

風間議員：かかりつけ医についてのお考えは。

丸山様：かかりつけ医とは、医療のことを気軽に相談できる医者のことを言うと考えている。

佐藤議員：駐車許可証を掲示していても通報される問題については、障害者マークを掲示すれば良いと考える。

高橋様：提案したいと思う。

○テーマ以外の市に対する要望

丸山様：秦野市は、特定検診や高齢者検診の受診率が低い。全国的な流れで、受診券を5月に一斉送付しているとのことだが、受診券を忘れても許可してくれるなど、もう少し柔軟に

	<p>できたら。また、今年の秦野市の長細い受診券については、改善したほうがよいと考える。</p> <p>近藤様：諸星議員が言われた6級地を5級地にという点は、ぜひ実現していただきたいと思う。また、特別養護老人ホームが要介護度3以上でないと申込みができないようになってから、有料老人ホームとの差がなくなってしまった。</p> <p>中村副委員長：いただいたご意見について、執行部とも相談しながら常任委員会としてしっかりと前に進めていくよう、努力していく。</p>
--	--